

# バイオ研究に米の圧力

オホーツク海に近い小さな病院で、かつて最先端の遺伝子研究に従事した医師が働いている。遺伝子スパイ事件で米連邦捜査局(FBI)の捜査を受けた理化学研究所(理研)の元研究員、岡本卓さん(43)は3月末、東京拘置所から北海道端野町の病院に戻ってきた。東京高裁が米国への身柄引き渡しを認めなかったからだ。「地域のかかりつけ医にあげられていました」。遺伝子に代わって患者と

向き合う日々を送っている。事件の発端は99年7月だった。米オハイオ州のクリップランド・クリニック財団研究所のチームリーダーだった岡本さんと日本人部下は数百の容器に入ったDNA試料を壊し、一部を日本に持ち出した。

## スパイ法の適用

当時、岡本さんはアルツハイマー病の原因となるたんぱく質の研究で知られ、米国立保健研究所(NIH)から研究資金を得ていた。「研究費は自分で獲得したもの。試料の所有権は自分にある」と考えた。

研究所側が告発。連邦検察当局は岡本さんと、岡本さんが試料を送った日本人研究者を経済スパイ法違反で起訴した。理研への転職が決まっていた岡本さんが理研に研究成果を不法に持ち込むとしたものとみた。岡本さんは「折り返いの悪かった研究者に試料を残したくなかった」と動機を主張。今年3月、東京高裁は「岡本氏が理研の利益を意図したとは認められない」などとし、身柄を引き渡さない決定を下した。

引き渡しには至らなかったが、スパイ法が遺伝子研究に適用されたことに、多くの日本の研究者は米国の意思を感じ取った。96年に成立したスパイ法は米国内の研究成果を米国外の研究員や企業が不法に使うことな

ることを阻止する法律だ。日本の遺伝子研究を牽引してきた和昭允・前理研ゲノム科学総合研究センター(GSC)所長は、岡本事件を「米国が日本に投げた牽制球だ」とらえ、バイオ分野で主導的な立場

を脅かされると、米国は阻止に動き出す。こんな経験は過去にもあった。ヒトの遺伝子情報を読み解く「ヒトゲノム計画」は米国中心で進められた。しかし、自動解析機を使った遺伝子解析を81年に世界に先駆けて提唱したのは和昭さんだった。

東大教授だった和昭さんは約30億個のヒトDNAの塩基配列を読むには、コンピュータの活用が不可欠だと主張。政府予算もつき、日立製作所などと協

# 独自性確保へ日本模索

力をプロジェクトを進めた。ゲノム研究に関する著作で知られるクックデューガン・米デューク大教授は「米国は和昭氏や日立のDNA解析に非常に脅威を感じていた。半導体や自動車のように日本企業が米国企業をうち負かすのではないかと、恐怖した」と述べた。

米国のゲノム計画の中心人物は、DNAの二重らせん構造を発見したノーベル賞学者ワトソン博士だった。和昭さんを継いで日本のゲノム計画の中心にな

る。製品の輸入増加を求め米国に配慮し、日本政府は米国製解析機を国立の大学や研究所に次々納入した。日立製の売り上げは激減した。使用実績が問われる実験装置の分野で、日立製は国内ばかりか海外でも苦戦し、米国企業と提携せざるを得ない状況に追い込まれた。

## 実利求め新競争

日本は結局、ヒトゲノム計画の一参加者となった。6カ国が加わったプロジェクトは昨年春、解説完了を宣言。約30億塩基のうち米国が読んだのは59%、日本は6%にとどまった。榊佳之・理研GSC所長は「予算から言っても産業の力から言っても、日本の実力は米国の10分の1という」と話す。

バイオ研究に対する日米の国家戦略の差が、20年間で立場を変えてしまった。そして今、「ポスト・ゲノム」の競争が再び始まっている。ゲノム解析データを医療や製薬に生かす実利を求める競争だ。

米国は「エンコード計画」と名付け、NIH傘下の国立ヒトゲノム研究所(NHGR)を中心となし、遺伝子の個人ごとの役割を網羅的に調べて「遺伝子の百科事典」を作ろうとしている。将来は百科事典をもとに新しい治療方法や治療薬をつくることを試みだ。

昨年、NHGRから理研GSCの林崎良英博士に立て続けにメールや電話があった。「エンコード計画の会合に出席しませんか」。林崎氏は、たんぱく質をつくるのに必要な遺伝子を抽出したサンプルを大量に保有している。エンコード計画でこの試料を活用したいという米国の意思があると思われる。林崎氏は榊所長や和昭前所長に相談、「明確な返事はしない方がいい」と決めた。

## 貿易不均衡の影

「日本が米国のヒトゲノム計画に出資しないなら、日本はゲノム情報のデータベースから締め出されるだろう」

米国政府は巨額の予算を組んで「国際ヒトゲノム計画」を始めていた。米国の計画に速やかに加わるよう求める「脅迫」ではないかと松原さんは感じた。

今度こそ、日本の独自性を生かした遺伝子研究をはぐくむことができるのか、再び米国主導の研究に組み込まれるのかどうか。日本の研究者と日本政府の意思が試されている。



国際ヒトゲノム計画に参加した理化学研究所のゲノム科学総合研究センター研究室。外国製のDNA解析機が多く並ぶ横濱市鶴見区末広町で